

# 平成28年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	公明党室蘭市議会
議員名	細川 昭広、砂田 尚子、柏木 隆寿
調査実施年月日	平成28年11月16日(水)
調査先 自治体名等	神奈川県川崎市
調査項目	「川崎バイオマス発電所について」
調査目的	国内のバイオマス火力発電の先進地を調査し、本市に建設が予定されているバイオマス火力発電所の理解を深めるとともに、川崎市や企業が行っている環境対策や安全対策の取り組みと市民理解について調査する。
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:1,468,643人 (H28.6.1現在) 行政面積:144.35km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容 バイオマス発電は再生可能エネルギーの導入・普及促進を目指す国の施策に合致し、環境負荷が少なく安定的な発電による電力供給が見込まれる。今回視察した川崎バイオマス発電所は国内初の都市型バイオマス発電所であり首都圏で発生する建築廃材や街路樹の剪定枝などを木質チップ燃料として、大豆やコーヒー豆などの食品残さを燃料として有効利用することでエネルギーの地産地消を進めている。平成23年2月から運転開始しており、発電出力は33,000kW。国内一厳しいとされる川崎市の環境基準をクリアするため排煙脱硫装置や排煙脱硝装置、バグフィルターといった環境設備が整えられている。また燃焼時に生じる熱をエネルギーとして利活用する「サーマルリサイクル」も行われている。更に木質チップ燃料を保管するチップヤード上屋も開口部にミスト噴射装置を設置し粉じんなどの屋外流出対策も実施されていた。</p>
感想(まとめ) 本市へ活かせること等	本市においては東燃ゼネラルグループにより港北町の遊休地においてパームヤシ殻を燃料とするバイオマス火力発電所が建設されることが決定し、平成29年8月から工事が開始され平成32年5月から商業運転開始が見込まれている。今回視察した、川崎バイオマス発電所は燃料を首都圏の建築廃材や選定枝、豆類の食品残さに求め、国内カーボンニュートラルの概念に沿った事業であり再生可能エネルギーの地産地消が十分果たされた事業である。本市におけるバイオマス発電事業ではパームヤシ殻を輸入し燃料とするそうだが、海外でもバイオマス発電所の建設が増加し燃料となるパームヤシ殻の価格も高騰し始めているとの報道もある。国の再生可能エネルギー固定価格買取制度による買い取り単価の変動にもよるが発電事業を継続し地域経済の発展と雇用の確保に寄与するためには将来的には川崎バイオマス発電所のように近隣地域の建築廃材や剪定枝、間伐材なども燃料として受け入れていただく施策も検討すべき時が来るのではないかと感じた。また、川崎バイオマス発電所は工業地帯に立地しており居住地域とは離れているため再生可能エネルギー事業でもあり市民からの反発は少ないと感じた。本市では居住地域に近い場合、業務にあたっては環境対策、安全対策等に地域住民の声を生かした取り組みが求められる。